

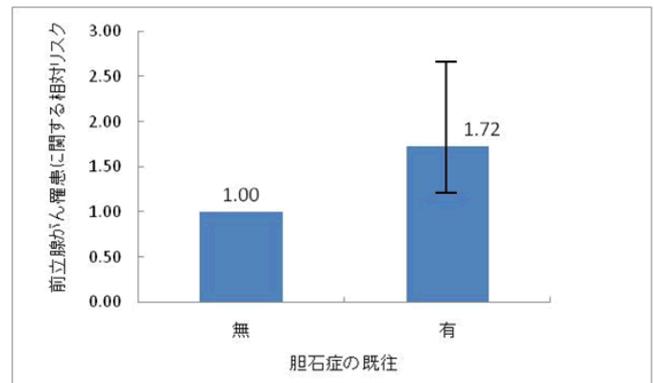
胆石症の既往と前立腺がん罹患リスク：大崎国保コホート研究

History of cholelithiasis and the risk of prostate cancer: the Ohsaki Cohort Study.
2010 年 International Journal of Cancer 発表

胆石症の既往のある人では前立腺がん罹患リスクが高くなる

多くの実験研究が、胆石症の既往で前立腺がん罹患リスクが高くなる可能性のあることを示唆しています。そのメカニズムについては、コレステロールが何らかの役割を果たしているのではないかと指摘されています。しかしながら、ヒトを対象とした研究は少なく、疫学研究は2件（生態学的研究が1件、症例対照研究が1件）しか行われていません。そこで私たちは「大崎国保加入者コホート」のデータを解析して、胆石症の既往と前立腺がん罹患リスクとの関連を検討しました。

その結果、胆石症の既往が「ない」と答えた人が前立腺がん罹患するリスクを1.00とすると、「ある」と答えた人の相対リスクは1.72となり、胆石症の既往のある人では前立腺がん罹患するリスクが高くなることが示されました。こうした関連は、進行性の前立腺がんにより顕著になっていました。



研究データについて

ベースライン調査：1994年10月から12月までに、宮城県の大崎保健所が管轄する14市町（当時）に居住する、40-79歳の国民健康保険の加入者約5万5000人を対象に、生活習慣に関する自己記入式アンケートを配布し、5万2029人から有効回答を得ました。回答率は95%です。

生活習慣に関する調査内容は、病気の既往歴と家族歴、体型などに関することなどの健康状態、運動習慣、喫煙、飲酒、食事などの生活習慣、職業、婚姻状況、学歴などの社会的な状況から構成されています。

追跡調査：ベースライン調査に答えていただいた方のうち、追跡開始以前に国民健康保険から脱退した方774人を対象から除外しました。今回の研究に関連する質問への回答に不備のあった方、がんの既往歴のある方を分析の対象から除外した、2万2458人の男性を対象としました。ベースライン調査時から2003年12月31日までの9年間の追跡調査で、230人が前立腺がんと診断されました。

胆石症の既往について

自己記入式アンケートによって脳卒中、高血圧など14の疾患の既往を尋ねています。そのひとつに胆石症が含まれ、既往歴がありの場合、さらに治療中、治療済、治療せずの別を尋ねています。

研究の特徴と限界について

胆石症の既往の有無と前立腺がん罹患リスクについては、生態学的研究1件と症例対照研究1件のみが報告されています。生態学的研究では集団の特性を比較しますので、胆石症の既往と前立腺がんリスクとの関連を詳しく検討することができません。また、症例対照研究では、すでに前立腺がん罹患した人を対象に過去を振り返って調査しますので、胆石症の有無を思い出すときや、前立腺がん罹患していない人を対照に選ぶ際に、関連をゆがめる可能性があります。これらに対して、私たちの宮城県の研究は一般市民を対象にした前向きなコホート研究です。比較的多くの前立腺がんの症例も含まれており、より信頼度の高い結果が出ています。また、進行性の前立腺がんにより顕著に関連がみられていることから、PSA等で早期に発見されるがんが結果に与えた影響も最小限であると思われる。

本研究では、自己回答によるデータを用いたため、必ずしも回答が実際と同じとは限らないのではないかと考えられます。しかしながら、アンケートの回答による胆石症の有無が実際と違っていれば、本来の胆石症と前立腺がんリスクとの関連を弱める方向に結果を導きますので、今回の結果は過小評価であるということになります。